

Feuで考える照明設計

第2回:明るさを抑えて高級感を演出

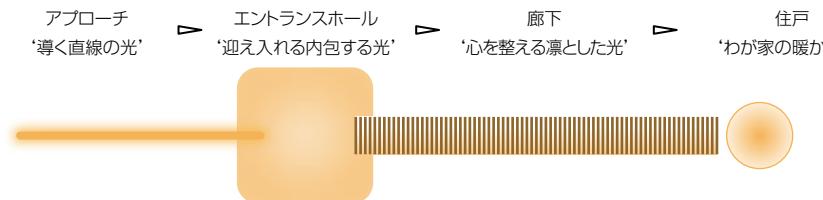
「ラ・トゥール代官山」 設計:日建設計

日本の表現を用いる

長岡秀和 「ラ・トゥール代官山」は住友不動産が手がける高級賃貸集合住宅「ラ・トゥール」シリーズのフラッグシップに位置付けられます。約16,000m²の敷地にはもともと2階建ての社宅が20戸ほど建っていました。木々が豊かに茂っていたため、その緑を引き継いでいます。建物は総合設計制度を利用して高さの緩和を受けながらも、周囲の建物の高さに合わせ地上6階の低層としました。外国人の入居者も想定していたため、箇の仕

上げや木製ルーバー、スギ板型枠を使ったコンクリート打ち放しの柱などの日本的な表現を用い、重厚感のある「お屋敷」のような設えとしています。こうした試みはクライアントの通常の仕様とは大きく違っており、「冒険」でした。アプローチから見えるところには厚い「山東黒」という花崗岩を積層させており、薄い石を貼ったのとは違った風合いになっています。そして、旗竿敷地の特徴を生かし、道路から建物までの距離を長く取り、まるで石積みの中に入していくような雰囲

気をつくりました。他の集合住宅とは違った特別な「引き」の演出をねらったのです。同じようにエントランスホールの木製ルーバーは住戸との見合いを防ぐと共に、風除室から廊下まで木の素材を共通して使い、居住者を中へ中へと導く役割も果たしています。一方、敷地周辺は低層の住宅が密集した環境だったので、各住戸は主に中庭に向けて開口を取っています。中庭にはさまざまな種類の樹木を植え、中庭を挟んだ見合いを和らげています。内側を向きながらなるべく飽きのこない高級感を



空間と照明の基本コンセプト図。



アプローチの照明計画シミュレーション。
Feu値: 0.21, 平均床面照度: 7lx.



アプローチ、足元に仕込まれた蛍光灯ライン照明による直線の光がエントランスまで導く。



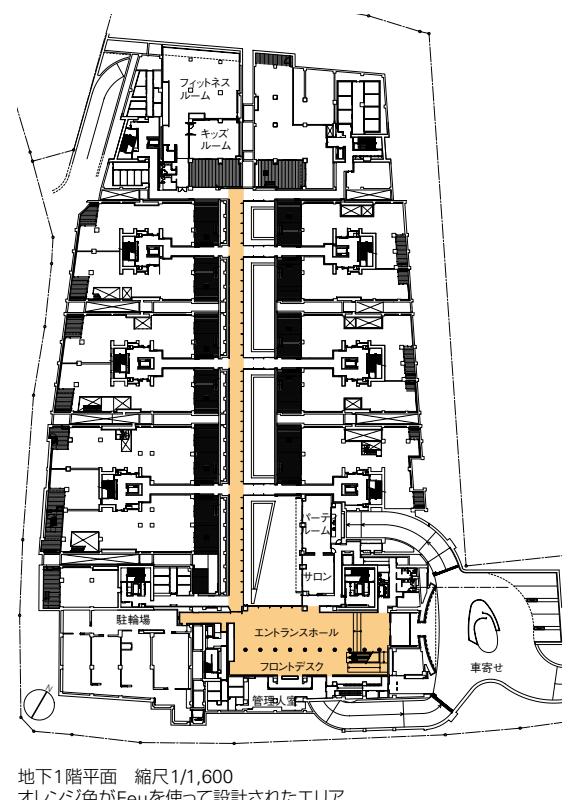
エントランスホールの照明計画シミュレーション。
Feu値: 2.8, 平均床面照度: 127lx.



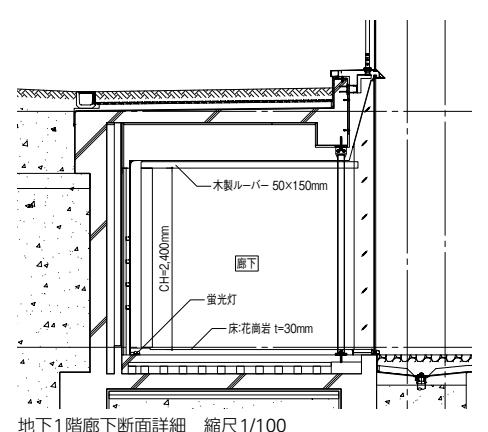
エントランスホール、列柱はスギ板型枠のコンクリート打ち放し、照明と自然光による柔らかな光が訪れる人を迎える。



エントランスホールより中庭を見る。中庭を向いた大開口から自然光が入る。木製ルーバーが中庭との見合いを和らげる。



地下1階平面 縮尺1/1,600
オレンジ色がFeuを使って設計されたエリア



地下1階廊下断面詳細 縮尺1/100

感じられるように工夫しました。

Feuを使いイメージを共有する

今回はアプローチ、エントランスホール、そして廊下でFeuを使いました。Feuを知ったのは現場に入つてからです。実施設計の図面では照明の種類と数量が大まかに記載されている状態なので、まだ変更が可能ですが、ちょうど設備設計者と照明を増やすか減らすかといったやり取りをしているところで、こんな空間にしたいというイメージがあったので、それをパナソニック電工の方に協力してもらいました。中庭を見せつつ、ここがメインであることを主張しながらも、街から住まいへ向かって心を整えられる凜とした空間にしたかった。この距離を生かす素材や仕上げ、中庭の眺望、そして照明などの要素をCGや実寸のモックアップをつくりながら試行錯誤を繰り返しました。Feuを使ったシミュレーションの結果、照明は天井ではなく床に入ることにし、設計当初以上に雰囲気のある空間になりました。住まい手はこの廊下を毎日歩くことになりますから、クライアントも私たちも住まい手が気に入ってくれるか心配していましたが、ふたを開けてみるととても好評だそうです。そして、ここを訪れた人はこの廊下であつと驚くそうです。そういう意味ではFeuを使った甲斐がありました。

暗さをどうつくるか

明るさを抑えようと思ったのは、明るくしそうとの建物に求められた高級感が出ませんし、不要なものまでむき出しで見えてしまうからです。今回は「明るさ感」というより「暗さ感」がテーマで、暗さをどうつくるかということに注力しました。明るく



設計当初の地下1階廊下のイメージベース。天井に蛍光灯のライン照明を仕込んでいた。



廊下の照明計画シミュレーション。
Feu値: 0.96, 平均床面照度: 16lx.
シミュレーション画像提供: パナソニック電工

本連載は、「パナソニック電工株式会社」の取材協力のもとに、建築照明業界における最新情報の発信を目的としてお送りしています。パナソニック電工ではこの「Feu」を活用した照明設計を実現する建築照明シリーズを「SmartArchi」として展開。詳細は「SmartArchi」Webサイトへ。 <http://denko.panasonic.biz/Ebox/smartarchi/>

するのは照明器具さえつけばできるのですが、使い勝手を損ねずに暗くするのは難しい。そこでFeuの力を借り、暗くなりすぎないように明るさを抑えることができました。

象徴となる廊下

約90mの廊下はこの建物の象徴的な空間です。アプローチから廊下の端まで約200m歩くことになり、廊下を飽きないようにどうデザインするか苦心しました。中庭を見せつつ、ここがメインであることを主張しながらも、街から住まいへ向かって心を整えられる凜とした空間にしたかった。この距離を生かす素材や仕上げ、中庭の眺望、そして照明などの要素をCGや実寸のモックアップをつくりながら試行錯誤を繰り返しました。Feuを使ったシミュレーションの結果、照明は天井ではなく床に入ることにし、設計当初以上に雰囲気のある空間になりました。住まい手はこの廊下を毎日歩くことになりますから、クライアントも私たちも住まい手が気に入ってくれるか心配していましたが、ふたを開けてみるととても好評だそうです。そして、ここを訪れた人はこの廊下であつと驚くそうです。そういう意味ではFeuを使った甲斐がありました。

工側の人たちにも伝わりやすい、こういう空間をつくりたいんだ、ということが理解してもらえるので、現場で非常にやりやすいんですね。今回、Feuを使ったことはクライアントにも好評でしたので、次回はより早い段階から使いたいと思っています。

(2010年12月15日、ラ・トゥール代官山にて 文責:本誌編集部)

長岡秀和(ながおか・ひでかず)
1975年群馬県生まれ／2000年東京藝術大学美術学部建築科卒業／2002年同大学大学院美術研究科建築科修士課程修了後、日建設計／現在、同社設計部門設計室

建主 住友不動産
所在地 東京都渋谷区鷺谷町13-1
主要用途 共同住宅
設計 建築 日建設計
共同設計 専有部: 日建ハウジングシステム
日建スペースデザイン
最上階インテリア: アシハラヒロコデザイン事務所
ランドスケープ: アースケイプ
構造・設備・照明設計 日建設計
照明設計協力 パナソニック電工 照明デザインEC
施工 西松建設
敷地面積 15,723.11m²
建築面積 7,065.42m²
延床面積 49,954.25m²
規模 地下2階 地上6階
構造 鉄筋コンクリート造
竣工 2010年9月